

1

解答解説のページへ

n を 3 以上の自然数とする。1 個のさいころを n 回投げて、出た目の数の積をとる。積が 60 となる確率を p_n とする。以下の問いに答えよ。

- (1) p_3 を求めよ。
- (2) $n \geq 4$ のとき、 p_n を求めよ。
- (3) $n \geq 4$ とする。出た目の数の積が n 回目にはじめて 60 となる確率を求めよ。

2

解答解説のページへ

原点を O とする座標平面上に 3 点 A, B, C がある。 $\overrightarrow{OA} = \vec{u}$, $\overrightarrow{AB} = \vec{v}$, $\overrightarrow{BC} = \vec{w}$ とおく。 $\vec{e}_1 = (1, 0)$, $\vec{e}_2 = (0, 1)$ とするとき 3 つのベクトル \vec{u} , \vec{v} , \vec{w} は

$$\begin{cases} \vec{u} = -\vec{e}_1 \\ \vec{v} \cdot \vec{e}_1 = 4, \quad |\vec{v}| = 2\sqrt{5}, \quad \vec{v} \cdot \vec{e}_2 < 0 \\ \vec{w} \cdot \vec{e}_1 = 8, \quad |\vec{w}| = 8\sqrt{2}, \quad \vec{w} \cdot \vec{e}_2 > 0 \end{cases}$$

を満たすとする。ただし、 $|\vec{x}|$ はベクトル \vec{x} の大きさを表し、 $\vec{x} \cdot \vec{y}$ は 2 つのベクトル \vec{x} と \vec{y} の内積を表す。以下の問いに答えよ。

- (1) 3 点 A, B, C の座標をそれぞれ求めよ。
- (2) 3 点 A, B, C を通る円の方程式を求めよ。
- (3) 3 点 A, B, C を通る円の中心を P とするとき、 $\triangle ABC$ の面積と $\triangle ABP$ の面積の比を求めよ。

3

解答解説のページへ

xy 平面上に点 $P(\cos\theta, \sin\theta)$ をとり、 θ が $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲を動くとする。点 A は y 軸上の点で、 y 座標が負であり、 $AP = 2$ を満たす。点 Q は $\overrightarrow{AQ} = 4\overrightarrow{AP}$ を満たす点とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 点 Q の座標を θ を用いて表せ。
- (2) 点 Q の x 座標の最大値と最小値および y 座標の最大値と最小値をそれぞれ求めよ。
- (3) 点 Q の軌跡と y 軸で囲まれた図形の面積を求めよ。

4

解答解説のページへ

平面上の 2 つの円が直交するとは、2 つの円が 2 点で交わり、各交点において 2 つの円の接線が互いに直交することである。以下の問いに答えよ。

- (1) C_1, C_2 は半径がそれぞれ r_1, r_2 の円とする。 C_1 の中心と C_2 の中心の間の距離を d とする。 C_1 と C_2 が直交するための必要十分条件を d, r_1, r_2 の関係式で表せ。
- (2) p, r_1, r_2 は $p > r_1 + r_2, r_1 > 0, r_2 > 0$ を満たす実数とする。座標平面上において、原点 O を中心とする半径 r_1 の円を C_1 、点 $(p, 0)$ を中心とする半径 r_2 の円を C_2 とする。 C_1 と C_2 のいずれにも直交する円の中心の軌跡を求めよ。
- (3) 互いに外部にある 3 つの円の中心が一直線上にないとき、それら 3 つの円のいずれにも直交する円がただ 1 つ存在することを示せ。

1

問題のページへ

- (1) 1 個のさいころを 3 回投げて、出た目の数の積が $60 = 2^2 \times 3 \times 5$ となるのは、出た目の数が $\{2, 5, 6\}$, $\{3, 4, 5\}$ のときであり、その確率 p_3 は、

$$p_3 = 3! \times \left(\frac{1}{6}\right)^3 + 3! \times \left(\frac{1}{6}\right)^3 = \frac{1}{18}$$

- (2) $n \geq 4$ のとき、1 個のさいころを n 回投げて、出た目の数の積が 60 となるのは、出た目の数について、

(i) $\{2, 5, 6, 1, 1, \dots, 1\}$ (1 は $n-3$ 回) のとき

(ii) $\{3, 4, 5, 1, 1, \dots, 1\}$ (1 は $n-3$ 回) のとき

(iii) $\{2, 2, 3, 5, 1, \dots, 1\}$ (1 は $n-4$ 回) のとき

(i)~(iii) より、この確率 p_n は、

$$\begin{aligned} p_n &= \frac{n!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^n + \frac{n!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^n + \frac{n!}{2!(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \left\{ 2n(n-1)(n-2) + \frac{1}{2}n(n-1)(n-2)(n-3) \right\} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}n(n-1)(n-2)(4+n-3) \left(\frac{1}{6}\right)^n = \frac{1}{2}(n+1)n(n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

- (3) $n \geq 4$ のとき、出た目の数の積が n 回目にはじめて 60 となるのは、

(a) n 回目が 2 のとき (2) の (i) と (iii) の場合より、このときの確率は、

$$\begin{aligned} &\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} \\ &= \{(n-1)(n-2) + (n-1)(n-2)(n-3)\} \left(\frac{1}{6}\right)^n = (n-1)(n-2)^2 \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

(b) n 回目が 3 のとき (2) の (ii) と (iii) の場合より、このときの確率は、

$$\begin{aligned} &\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{2!(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} \\ &= \left\{ (n-1)(n-2) + \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n-3) \right\} \left(\frac{1}{6}\right)^n = \frac{1}{2}(n-1)^2(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

(c) n 回目が 4 のとき (2) の (ii) の場合より、このときの確率は、

$$\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} = (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n$$

(d) n 回目が 5 のとき (2) の (i) と (ii) と (iii) の場合より、このときの確率は、

$$\begin{aligned} &\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{2!(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} \\ &= \left\{ 2(n-1)(n-2) + \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n-3) \right\} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n+1) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

(e) n 回目が 6 のとき (2)の(i)の場合より, このときの確率は,

$$\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} = (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n$$

(a)~(e)より, 出た目の積が n 回目にはじめて 60 となる確率 q_n は,

$$\begin{aligned} q_n &= (n-1)(n-2)^2 \left(\frac{1}{6}\right)^n + \frac{1}{2}(n-1)^2(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n + (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &\quad + \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n+1) \left(\frac{1}{6}\right)^n + (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}(n-1)(n-2) \{2(n-2) + (n-1) + 2 + (n+1) + 2\} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}(n-1)(n-2) \cdot 4n \left(\frac{1}{6}\right)^n = 2n(n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

[解説]

確率の標準的な問題です。(3)は n 回目が 1 という場合は, 条件にあてはまらないという点に着目しています。

2

問題のページへ

- (1) $\vec{OA} = \vec{u} = (u_1, u_2)$, $\vec{AB} = \vec{v} = (v_1, v_2)$, $\vec{BC} = \vec{w} = (w_1, w_2)$ とおく。そして、 $\vec{e}_1 = (1, 0)$, $\vec{e}_2 = (0, 1)$ のとき、 $\vec{u} = -\vec{e}_1 = (-1, 0)$ より、 $u_1 = -1$, $u_2 = 0$
 また、 $\vec{v} \cdot \vec{e}_1 = 4$ より $v_1 = 4$, $\vec{v} \cdot \vec{e}_2 < 0$ より $v_2 < 0$ となり、 $|\vec{v}| = 2\sqrt{5}$ から、
 $4^2 + v_2^2 = (2\sqrt{5})^2$, $v_2^2 = 4$, $v_2 = -2$
 さらに、 $\vec{w} \cdot \vec{e}_1 = 8$ より $w_1 = 8$, $\vec{w} \cdot \vec{e}_2 > 0$ より $w_2 > 0$ となり、 $|\vec{w}| = 8\sqrt{2}$ から、
 $8^2 + w_2^2 = (8\sqrt{2})^2$, $w_2^2 = 64$, $w_2 = 8$
 したがって、 $\vec{OA} = (-1, 0)$, $\vec{AB} = (4, -2)$, $\vec{BC} = (8, 8)$ となり、
 $\vec{OB} = \vec{OA} + \vec{AB} = (3, -2)$, $\vec{OC} = \vec{OB} + \vec{BC} = (11, 6)$
 これより、 $A(-1, 0)$, $B(3, -2)$, $C(11, 6)$ である。

- (2) 線分 AB の中点は $(1, -1)$ で、 $\vec{AB} = 2(2, -1)$ から、
 線分 AB の垂直二等分線の方程式は、

$$2(x-1) - (y+1) = 0, \quad 2x - y - 3 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

- 線分 BC の中点は $(7, 2)$ で、 $\vec{BC} = 8(1, 1)$ から、線分 BC の垂直二等分線の方程式は、

$$(x-7) + (y-2) = 0, \quad x + y - 9 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

直線①と②の交点が 3 点 A, B, C を通る円の中心 P なので、 $3x - 12 = 0$ より $x = 4$ となり、 $y = 9 - 4 = 5$ から $P(4, 5)$ である。

すると、 $PA = \sqrt{(4+1)^2 + 5^2} = 5\sqrt{2}$ から、3 点 A, B, C を通る円の方程式は、

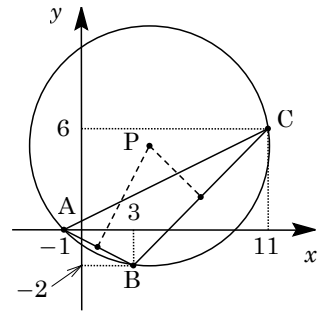
$$(x-4)^2 + (y-5)^2 = 50$$

- (3) 直線 AB の方程式は、 $y = -\frac{1}{2}(x+1)$ より $x + 2y + 1 = 0$ であり、このとき点 C, 点 P から直線 AB に下ろした垂線の長さを、それぞれ d_C , d_P とおくと、

$$d_C = \frac{|11 + 2 \cdot 6 + 1|}{\sqrt{1^2 + 2^2}} = \frac{24}{\sqrt{5}}, \quad d_P = \frac{|4 + 2 \cdot 5 + 1|}{\sqrt{1^2 + 2^2}} = \frac{15}{\sqrt{5}}$$

すると、 $\triangle ABC$ の面積と $\triangle ABP$ の面積の比は、

$$d_C : d_P = \frac{24}{\sqrt{5}} : \frac{15}{\sqrt{5}} = 8 : 5$$



[解説]

一見、ベクトルで与えられた条件が複雑そうなのですが、見た目ほどではありません。解きほぐせば、後は基本的な計算だけです。

3

問題のページへ

(1) θ が $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲を動くとき $P(\cos\theta, \sin\theta)$ と

$A(0, a)$ に対し, $AP = 2$ から,

$$\cos^2\theta + (\sin\theta - a)^2 = 4, \quad 1 - 2a\sin\theta + a^2 = 4$$

すると, $a^2 - 2a\sin\theta - 3 = 0$ となり, $a < 0$ から,

$$a = \sin\theta - \sqrt{\sin^2\theta + 3}$$

ここで, $\overrightarrow{AQ} = 4\overrightarrow{AP}$ から,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= \overrightarrow{OA} + 4\overrightarrow{AP} = (0, a) + 4(\cos\theta, \sin\theta - a) = (4\cos\theta, 4\sin\theta - 3a) \\ &= (4\cos\theta, 4\sin\theta - 3\sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \\ &= (4\cos\theta, \sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \end{aligned}$$

したがって, $Q(4\cos\theta, \sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3})$ である。

(2) (1)から, $x = 4\cos\theta$, $y = \sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}$ とおくと, $\frac{dx}{d\theta} = -4\sin\theta$

$$\frac{dy}{d\theta} = \cos\theta + \frac{3}{2} \cdot \frac{2\sin\theta\cos\theta}{\sqrt{\sin^2\theta + 3}} = \frac{\cos\theta}{\sqrt{\sin^2\theta + 3}} (\sqrt{\sin^2\theta + 3} + 3\sin\theta)$$

ここで, $\sqrt{\sin^2\theta + 3} + 3\sin\theta = 0$ とすると, $\sqrt{\sin^2\theta + 3} = -3\sin\theta$

$\sin\theta \leq 0$ のもとで, $\sin^2\theta + 3 = 9\sin^2\theta$ となり, $\sin\theta = -\sqrt{\frac{3}{8}} = -\frac{\sqrt{6}}{4}$

$\sin\alpha = -\frac{\sqrt{6}}{4}$ ($-\frac{\pi}{2} < \alpha < 0$)

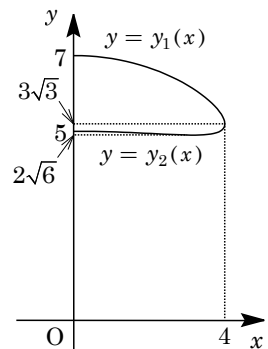
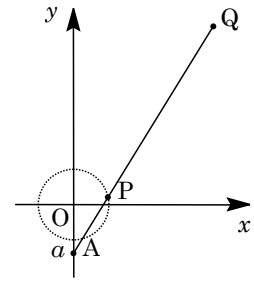
とおき, $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ における x ,

y の増減を調べると, 右表のようになる。これより, 点 Q の x 座標の最大値は 4, 最小値は 0 であり, y 座標の最大値は 7, 最小値は $2\sqrt{6}$ である。

θ	$-\frac{\pi}{2}$...	α	...	0	...	$\frac{\pi}{2}$
$\frac{dx}{d\theta}$		+		+	0	-	
x	0	↗		↗	4	↘	0
$\frac{dy}{d\theta}$	0	-	0	+		+	0
y	5	↘	$2\sqrt{6}$	↗	$3\sqrt{3}$	↗	7

(3) 点 Q の軌跡は右図の曲線のようになり, $y \geq 3\sqrt{3}$ の部分を $y = y_1(x)$, $y \leq 3\sqrt{3}$ の部分を $y = y_2(x)$ とおくと, この曲線と y 軸で囲まれた図形の面積 S は,

$$\begin{aligned} S &= \int_0^4 y_1(x) dx - \int_0^4 y_2(x) dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{2}}^0 (\sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \cdot (-4\sin\theta) d\theta \\ &\quad - \int_{-\frac{\pi}{2}}^0 (\sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \cdot (-4\sin\theta) d\theta \end{aligned}$$



被積分関数に注意して、積分区間をまとめると、

$$\begin{aligned} S &= - \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (\sin \theta + 3\sqrt{\sin^2 \theta + 3}) \cdot (-4 \sin \theta) d\theta \\ &= 4 \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (\sin^2 \theta + 3 \sin \theta \sqrt{\sin^2 \theta + 3}) d\theta \end{aligned}$$

ここで、 $f(\theta) = \sin^2 \theta$ 、 $g(\theta) = \sin \theta \sqrt{\sin^2 \theta + 3}$ とおくと、 $f(-\theta) = f(\theta)$ から $f(\theta)$ は偶関数、 $g(-\theta) = -g(\theta)$ から $g(\theta)$ は奇関数なので、

$$S = 8 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 \theta d\theta = 4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos 2\theta) d\theta = 4 \left[\theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = 4 \cdot \frac{\pi}{2} = 2\pi$$

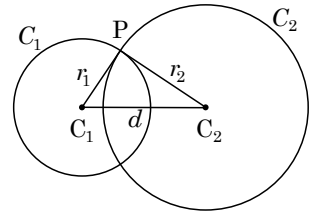
[解説]

パラメータ曲線と面積の問題です。立式については難しくありませんが、計算はやや面倒なので、時間を費やすことになるでしょう。

4

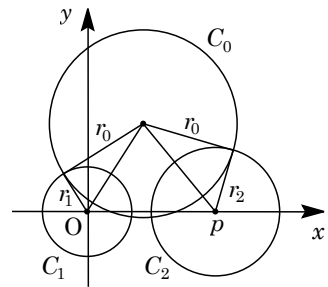
問題のページへ

- (1) 中心 C_1 で半径 r_1 の円 C_1 と、中心 C_2 で半径 r_2 の円 C_2 が直交し、 C_1 と C_2 の交点の 1 つを P とおく。



すると、直線 C_2P が円 C_1 の接線、直線 C_1P が円 C_2 の接線になることより、 $\angle C_1PC_2 = 90^\circ$ であり、これより $d^2 = r_1^2 + r_2^2$ である。

- (2) 互いに外部にある 2 つの円 $C_1 : x^2 + y^2 = r_1^2$ と $C_2 : (x-p)^2 + y^2 = r_2^2$ のいずれにも直交する円 C_0 の中心を (x_0, y_0) 、半径を r_0 とおくと、(1)から、



$$x_0^2 + y_0^2 = r_1^2 + r_0^2 \dots\dots\dots ①$$

$$(x_0 - p)^2 + y_0^2 = r_2^2 + r_0^2 \dots\dots\dots ②$$

①-②より $2px_0 - p^2 = r_1^2 - r_2^2$ となり、 $p > 0$ から、

$$x_0 = \frac{1}{2p}(r_1^2 - r_2^2 + p^2) \dots\dots\dots ③$$

①に代入すると、 $\frac{1}{4p^2}(r_1^2 - r_2^2 + p^2)^2 + y_0^2 = r_1^2 + r_0^2$ となり、

$$\begin{aligned} r_0^2 &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}(r_1^2 - r_2^2 + p^2)^2 - r_1^2 = y_0^2 + \frac{1}{4p^2}\{(r_1^2 - r_2^2 + p^2)^2 - 4p^2r_1^2\} \\ &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}\{p^4 - 2(r_1^2 + r_2^2)p^2 + (r_1^2 - r_2^2)^2\} \\ &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}\{p^2 - (r_1 + r_2)^2\}\{p^2 - (r_1 - r_2)^2\} \\ &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}(p + r_1 + r_2)(p - r_1 - r_2)(p + r_1 - r_2)(p - r_1 + r_2) \end{aligned}$$

ここで、 $p > r_1 + r_2$ より、任意の y_0 に対して $r_0 > 0$ が決まるので、 C_0 の中心の軌跡は、③から直線 $x = \frac{1}{2p}(r_1^2 - r_2^2 + p^2)$ である。

- (3) 互いに外部にある 3 つの円 C_1, C_2, C_3 を、以下のように設定する。

$$C_1 : x^2 + y^2 = r_1^2, \quad C_2 : (x-p)^2 + y^2 = r_2^2, \quad C_3 : (x-a)^2 + (y-b)^2 = r_3^2$$

ただし、この 3 つの円の中心が一直線上にないことより、 $b \neq 0$ である。

まず、 C_1 と C_2 のいずれにも直交する円 D_1 の中心 (x_1, y_1) 、半径 R_1 とおくと、

$$x_1^2 + y_1^2 = r_1^2 + R_1^2 \dots\dots\dots ④, \quad (x_1 - p)^2 + y_1^2 = r_2^2 + R_1^2 \dots\dots\dots ⑤$$

④⑤より $2px_1 - p^2 = r_1^2 - r_2^2$ となり、点 (x_1, y_1) の軌跡は、

$$\text{直線} : 2px - p^2 = r_1^2 - r_2^2 \dots\dots\dots ⑥$$

また、 C_1 と C_3 のいずれにも直交する円 D_2 の中心 (x_2, y_2) 、半径 R_2 とおくと、

$$x_2^2 + y_2^2 = r_1^2 + R_2^2 \dots\dots\dots ⑦, \quad (x_2 - a)^2 + (y_2 - b)^2 = r_3^2 + R_2^2 \dots\dots\dots ⑧$$

⑦⑧より $2ax_2 + 2by_2 - a^2 - b^2 = r_1^2 - r_3^2$ となり, 点 (x_2, y_2) の軌跡は,

$$\text{直線: } 2ax + 2by - a^2 - b^2 = r_1^2 - r_3^2 \cdots \cdots \text{⑨}$$

さらに, C_2 と C_3 のいずれにも直交する円 D_3 の中心 (x_3, y_3) , 半径 R_3 とおくと,

$$(x_3 - p)^2 + y_3^2 = r_2^2 + R_3^2 \cdots \cdots \text{⑩}, (x_3 - a)^2 + (y_3 - b)^2 = r_3^2 + R_3^2 \cdots \cdots \text{⑪}$$

⑩⑪より $2(a-p)x_3 + 2by_3 + p^2 - a^2 - b^2 = r_2^2 - r_3^2$ となり, 点 (x_3, y_3) の軌跡は,

$$\text{直線: } 2(a-p)x + 2by + p^2 - a^2 - b^2 = r_2^2 - r_3^2 \cdots \cdots \text{⑫}$$

さて, $b \neq 0$ より, 直線⑥と直線⑨は交点を持ち, この座標を (X, Y) とおくと,

$$2pX - p^2 = r_1^2 - r_2^2 \cdots \cdots \text{⑬}, 2aX + 2bY - a^2 - b^2 = r_1^2 - r_3^2 \cdots \cdots \text{⑭}$$

⑭-⑬より, $2(a-p)X + 2bY + p^2 - a^2 - b^2 = r_2^2 - r_3^2$ となり, 点 (X, Y) が直線⑫上にあることがわかる。すなわち, 直線⑥, 直線⑨, 直線⑫は 1 点で交わる。

そして, この交点 (X, Y) に対して, ④⑤⑦⑧⑩⑪から,

$$X^2 + Y^2 = r_1^2 + R_1^2, (X - p)^2 + Y^2 = r_2^2 + R_1^2$$

$$X^2 + Y^2 = r_1^2 + R_2^2, (X - a)^2 + (Y - b)^2 = r_3^2 + R_2^2$$

$$(X - p)^2 + Y^2 = r_2^2 + R_3^2, (X - a)^2 + (Y - b)^2 = r_3^2 + R_3^2$$

したがって, $R_1 = R_2 = R_3$ となり, 3 つの円 C_1, C_2, C_3 のいずれにも直交する円はただ 1 つ存在する。

[解説]

2 円の関係を題材にした難しめの問題です。(2)の軌跡については, y_0 の任意性にも触れておきました。なお, (3)の論証は省略気味の記述です。くどいと感じるかもしれませんが……。